

## 学校評価 公表シート2

## 1 本園の教育目標

建学の精神にのっとり「躰に重点を置き、心身ともに健全で情操豊かな子ども」をめざす。幼児一人ひとりが自信をもって、明るく楽しく落ち着いて生活し、生きる喜びをもてるような教育活動を行っている。

- ①明るく、楽しく、友だち同士仲良くできるように計画し、指導する。
- ②幼児の能力や性格などを伸ばすように、教育研究と指導実践の両面を進めていく。
- ③ふだんから健康衛生に対する関心を高め、実践を通して習慣化していく。
- ④集団の中での規律、友愛、礼儀作法が身につくようにする。

## 2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

より質の高い教育を提供し、園児たちの健全育成を達成するために、教育内容のさらなる充実・深化を図る。そのために職員研修のさらなる充実と工夫に努める。

## 3 評価項目の達成及び取組内容

評価項目	取組内容
1 子どもの「体カアップ」を意識した教育・保育の在り方	「体カアップ」を日常の教育活動や保育の中でどのように組み込んでいくか <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備（教室に鉄棒、マットを設置）</li> <li>・「心身統一」との関連付け</li> <li>・職員研修の活用</li> <li>・大型園庭遊具の活用（2学期以降）</li> <li>・体育教室や体カアップ教室との連携</li> </ul>
2 教師集団の指導力・保育力・団結力向上	教師集団の指導力・保育力・団結力の向上を図る <ul style="list-style-type: none"> <li>・周年行事の企画・運営・準備を通して</li> <li>・職員研修の活用</li> <li>・仲間意識やチーム力を向上させる取組</li> </ul>
3 よりよい職場環境に向けて	すてきな幼稚園教諭としての「働き方改革」への取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「時短」「処遇改善」の取組</li> <li>・長期休暇の確保</li> <li>・事務作業の削減</li> <li>・業務や作業、行事の見直し</li> <li>・労務士（社労士）や会計士からの指導助言</li> </ul>

## 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

## 1 子どもの「体カアップ」を意識した教育・保育の在り方

本年度は、本園の教育内容の一つの柱となる「体カアップ」に重点を置いて実践した。各学年にマットと室内用鉄棒を設置し、日頃から鉄棒に親しめる環境作りに努めた。また、4月の職員研修で保育正課の「体育教室」講師を招き、子どもたちに運動（マット、鉄棒、うんてい）に楽しく取り組むための工夫やコツ、ノウハウを教えていただいた。8月に完成した大型園庭遊具 えがおのもり「にしようタワー」は、遊びながら体カアップできるような工夫がいくつか施されており、2学期以降の朝の体カアップでも年中・年長園児は「にしようタワー」を生かした西幼サーキットを展開することができた。

## 2 教師集団の指導力・保育力・団結力向上

本年度は創立110周年記念式典の年だった。第1部「にしよう文化芸術祭」の全園児による「希望の歌～交響曲第九番～」の歌唱指導では指導力・保育力を、第2部「クリスマスパーティー」の教職員による劇・器楽合奏の練習や本番で団結力を強めることができた。

また、「躰・態度教育」を中心に据えた本園だが、教職員の態度も再確認した。「西幼よい子のお約束」の教職員版「西幼教職員の使命」を毎週1回唱和しているが、実際に行動化・態度化できているか、などの振り返りを行った。立ち止まってる挨拶や「はい」の返事など、子どもたちの手本となるべき姿を教職員が各々自己評価するようにした。「西幼教職員の使命」の内容が題目にならないよう行動化・態度化することをこれからも心がけていきたい。

## 3 よりよい職場環境に向けて

「働き方改革」が社会的風潮の広がりを見せる昨今、本園では次のような取組を行った。まず「時短」として、2学期より終礼を午後4時15分から午後4時に早めた。教職員の「処遇改善」として、令和2年度より保育料の値上げ分をすべて「処遇改善手当」に充てて、経験年数により差はあるものの大幅な給料増額となるよう理事会・評議員会に諮り、承認を得ることができた。次に事務作業の削減としては、コドモンアプリを導入し、連絡帳を無くして保育に専念できる環境作りに努めた。また、「園・クラスだより」や「給食献立」などの配布物をPDFにて配信することにより事務作業の大幅効率化につながった。さらには、保護者からの行事の出欠やアンケート調査もコドモンで行うことができ、集計作業なども従来より短時間で行うことができた。

年度末の指導要録の記入についてもパソコン入力で行い、作業効率のアップを図った。ただ、何でも効率化を図るのではなく、教職員の「働きがい」をいかに醸成するか、という視点も大切で、「だれのために、何のために働くのか？」を常に考えながら勤務し、自ら幼稚園教諭としての使命感や責任感を持ちながら人間性向上も併せて振り返り改善する考え方や習慣作りの大切さを感じている。

## 5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
1保育の見える化	日頃の保育が見えるようにする工夫、体制づくり
2キャリアアップできる職場づくり	キャリアアップの仕組みづくり
3よりよい職場環境に向けて	すてきな幼稚園教諭としての「働き方改革」への取組

## 6 学校関係者の評価

- 新しい遊具を使っの西幼サーキットは、全身を使って運動しているので、子どもの体力アップによい。さまざまな動きをするためいろんな筋肉が自然と鍛えられていると思う。
  - 心身統一は、園長先生の号令で大きな声で素早く動くことができ、統一がとれていた。何より楽しく取り組んでいるのが良かった。
  - 音感教育では、どの子も先生をよく見て集中している姿が印象的だった。ピアノの音に集中して耳を傾け、体で音階を表し真剣に取り組んでいた。
- ※3月の「学校関係者評価委員会」は、新型コロナウイルスの影響のため中止

## 7 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。